

# 年輪年代法最前線

年輪年代法とは、樹木の年輪の幅が各年の気候（おもに気温）に対応して変化することを利用した自然科学的年代測定法の一つで、誤差のない年代が得られます。わが国では、ヒノキやスギの年輪を使って、今から約3000年前までの年代を割り出す際に基準となる暦年標準パターンができています。

古環境研究室では、歴史学の年代研究に資するため考古学、建築史、美術史などに関連した木質文化財について、この年輪年代法による年代測定をおこなっています。また、全国各地で発見される埋没樹幹の年代測定を実施し、自然災害の発生年を確定する研究もおこなっています。

現在、奈良市にある唐招提寺では国宝の金堂（奈良時代）の全面解体修理事業が進行中です。当研究室では、これを絶好の機会ととらえ、建築部材の徹底した年代測定をおこなう考えです。この調査によって、金堂建築の創建年代や改修年代を知るための重要な年代情報が得られるものと関係者から大いに期待されています。

昨年度に実施した研究の成果の1つとしては、金堂

隅鬼の年輪年代が確定したことが挙げられます。この彫刻は、四隅の軒先の尾垂木と隅木のあいだにあって、高さは約30cm前後と小振りながら、何ともいかめしい表情で鎮座しているものです。材質は4体のうち3体がヒノキ、1体がマツでした。ヒノキ材の3体について年代測定をおこなったところ、それぞれ636年（東南隅）、569年（東北隅）、504年（西北隅）と確定することができました。3体とも心材に続く辺材部が完全に失われたものばかりでしたので、原木の外周部をどの程度切削したかは不明ですが、奈良時代の創建当初のものとして間違いないと考えています。これらの隅鬼は、わが国最古のものと判明しました。今後どんな発見がでてくるか、それが楽しみです。（埋蔵文化財センター 光谷拓実）



わが国最古のものと判明した隅鬼4体（唐招提寺金堂）